

令和5年度 各部・校務部の取組に関する自己評価

自己評価の評定

- A 「十分達成できた。(80%以上)」 B 「おおむね達成できた。(70%以上)」
 C 「あまり達成できなかった。(55%以上)」 D 「達成できなかった。(55%未満)」

	重点目標	関連する努力目標	具体的活動	各部・校務部の自己評価	
				評価	総括
小学部	友達や指導者、把握した実態などをつなぐ視点で授業づくりについて話し合い、確かな育ちにつながる実践を進める。	(2) 教育ビジョンの実行 (3) 専門性の向上	授業研究を3回実施し、重点目標に照らし学習活動や手立て、3観点に基づく学習評価など、授業づくりについて協議する。	A	育ちにつながる視点で学年ごとにテーマを設定し、授業づくりについての協議や研究授業の討議を重ねた。日々の様子観察から一人一人の実態を共有し、話し合ったことを指導や支援に役立てるとともに、友達と一緒に学び合い主体的に活動する児童の姿に確かな育ちを確認できたと考える。
中学部	内面の育ちや生徒個々の特性、環境に配慮した指導支援を行うことで、中学部のめざす生徒像「仲よく 友達と協力し 行動する生徒」につなげていく。	(2) 教育ビジョンの遂行 (3) 授業実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの体験（①愛されること②ほめられること③役に立つこと④必要とされること）を積み重ねることで、自己肯定感や自己有用感を育てる。そのうえでレジリエンスを育てることにつなげていく。 ・ 障害の特性や個人の特性、個人を取り巻く環境に合わせた効果的な指導支援を行うため、現職教育や学部会などで障害の特性や発達、環境要因について研修したり、「生徒の実態・支援シート」を活用したりして共通理解を図る。 ・ 〈①集団のルールを把握する。②人と良好な関係を築く。③属する社会集団のために何らかの役割を果たす。④他者や自分自身と折り合いをつける。〉という視点で、社会性の力を獲得できるように指導支援をしていく。 	A	自己肯定感や自己有用感を育むような働きかけを行うことで、生徒たちは自信を付け、主体的な行動が増えたり、問題となる行動が減少したりという変容が多く見られた。愛着障害や精神的に課題がある生徒については、行動の改善が見られないケースもあるが、教員間で「生徒の実態・支援シート」を活用したり、関係機関を交えたケース会、学年会等で個々の生徒への指導支援について共通理解を図ったりすることで、成長を目指して粘り強く指導を行っている。社会性に焦点を当てて授業研究や研修会を行い、社会性について意識しながら指導支援を行ったことで、中学部全体として、互いに協力し、認め合い、尊重し合う態度が着実に育ってきている。
高等部	「仕事」「生活」「余暇」のつながりや自己評価のあり方を意識した授業作りを行う。	(2) 教育ビジョンの遂行 (3) 授業実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価表やICT機器を活用し、生徒自ら自己理解や課題設定ができる工夫を行う。 ・ 進路に関する学習内容の構造化の考え方や「仕事」「生活」「余暇」の視点を各教科の学習内容に反映させた授業作りを行う。 ・ 生活基盤である家庭生活の充実を図るため、「IMJ活動」を継続し、生徒自身の振り返りにつなげたり、家庭と連携した指導を行ったりする。 ・ 「つまづきリスト」を活用し、指導内容の検討を行う。 	B	「仕事」「生活」「余暇」や「進路に関する学習の構造化」と関連付けて日々の授業作りに取り組むことができた。また、「つまづきリスト」を活用して、足りない内容を考えることもできた。自己評価については「IMJ活動」での自己評価や実習評価表などで継続して取り組んでおり、生徒自身も徐々に授業のなかで振り返りができるようになってきたが、まだ自己理解については十分とは言えない。今後も家庭と連携しながら、効果的な自己評価の方法を考え、今後の生活に生かせる工夫を行っていく必要がある。

教務部	「広ほうまるちゃんす」や校内掲示を通じて児童生徒の活動を伝え、各部をつなぐ。	(2) 教育ビジョンの遂行	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子や行事など、掲載する項目を見直し、見やすく配置する。 ・「広ほうまるちゃんす」に掲載した写真を拡大して校内に掲示し、各部の様子を知ることができるようにする。 	A	「広ほうまるちゃんす」の文字のフォントを見やすいものにした。掲載内容を精選して、写真を大きめにして掲載したりと、係で話し合っって作成をすすめた。教務部会で内容を紹介して確認を行った。学校評価アンケートでは、保護者から89%、職員から88.9%の評価を得ることができた。
総務部	保護者と学校をつなぐため各部や他の校務部と連携し学校行事や研修会等の開催方法や内容を計画・実施する。	(1) 安全で安心な学校づくりの推進 (2) 教育ビジョンの遂行	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や研修会等に関係する各部や校務部と打ち合わせを行い、お互いのニーズに合った計画や内容を実施する。 ・R4年度実施のアンケートやハートフルラインの会(PTA防災の会)の意見を参考に、「防災だより」の内容を充実させて情報提供を行う。 	B	2学期には、「子どもの行動の受け止め方」についてDVD視聴による研修会を行った。また、進路指導部と連携してPTA研修視察報告会を実施した。3学期には、「就労(職)先ってどうやって決めるの? ~先輩保護者さん、教えて下さい~」について座談会形式で研修会を行った。いずれも、保護者の要望に少しでも応えられるような内容となった。「防災だより」では、非常持ち出し袋、避難訓練の様子、ローリングストック、シェイクアウト訓練、災害用伝言ダイヤル等、有用な情報を提供できた。
メディア教育部	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器活用教育推進のため機器の整備と活用方法について研修を行う。 ・ICT機器やソーシャルメディアの安全な利用方法の指導や研修を行う。 	(2) 教育ビジョンの遂行 (3) 授業実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週月曜日にICT機器の活用方法について研修機会を設ける。 ・年に数回程度メディア教育研修を全職員対象に行い、セキュリティーや著作権についての意識向上を図る。 ・教育活動、その他校務におけるリモートでの活動が円滑に実施できるように環境の整備や技術支援を行う。 	B	タブレット端末の利用調査を行い、前年度に比べて利用率の向上が見られた。また、授業をする指導者にもICTの活用への意識の高まりがみられ、校内研修への参加や研修以外でもICTの活用に関する質問も増加した。児童生徒たちもタブレット端末の操作や活用するスキルの向上が見られ、学習場面での活用はもちろん日常生活の支援ツールとしての使用も多く見られるようになり、一定の成果を上げることができた。
研究部	生きる力を育むために児童生徒の「育ち」に焦点を当て、丁寧に学習評価を行いながら、確かな学びにつながる授業づくりに向け研究を推進する。	(2) 教育ビジョンの遂行 (3) 授業実践力の向上	授業実践に生かすために、研究テーマに基づいた部現教や授業研究を行う。	A	部や学年で設定したテーマの下、それぞれの段階にふさわしい内容で授業研究や部現教を行うことができた。各学年での取組を紹介し合ったり、現場実習で見られる課題をデータベース化したりするなど、日々の指導や支援の充実につながる研究を進めることができた。観点別の学習評価については、部現教で研修を行い、共通理解を図ることができた。

同 和 人 教 育 部	人権意識や自尊感情を高めることができる研修を実施する。	(1) 安心で安全な学校づくりの推進 (2) 教育ビジョンの遂行	<ul style="list-style-type: none"> ・現地研修やビデオ研修を実施し、研修内容を人権・同和教育だよりに掲載する。 ・人権・同和教育だよりは、人権学習の児童生徒の様子や人権・同和教育に関わる情報を、より分かりやすく掲載する。 ・人権学習の参考になる図書を紹介したり、「いのち」をテーマにした人権放送や人権展の内容を工夫したりする。 	B	夏期休業中や職員会での研修、保護者研修を通して、人権について考える機会を設けることができた。人権放送の絵本の読み聞かせや人権展の学習では、「大切ないのち」をテーマにした内容を取り入れ、児童生徒の実態に応じて学習することができた。それらの活動内容を写真も取り入れながら、人権・同和教育だよりに分かりやすく掲載することができた。職員への人権学習のアンケートや人権感覚チェックの結果からは、人権学習の内容に悩みをもったり、自尊感情を高めることができなかつたりという方が人数は少ないがおられた。
生徒 指導 部	児童生徒の登下校時の安全や、ルールやマナーを身に付けるための取組を充実させる。	(2) 教育ビジョンの遂行 (3) 授業実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会による啓発放送や広報掲示を行う。 ・全校集会、部集会などの機会に指導を行う。 ・通学指導（登校指導、下校指導）を充実させる。 	B	関係機関の協力を得て、交通安全や防犯についての教室を開催することができ、保護者から概ね理解も得ている。不審者対応教室は、小学部と中・高等部に分けて実施することにより、児童生徒に合った内容で実施することができた。生徒会活動では、役員がたすきを掛けてあいさつ運動に取り組んだり、啓発放送で交通安全を呼び掛けたりするなど、積極的な取組ができた。
進路 指導 部	「進路だより」、「職員研修」、「親の会研修会」等を通して、卒業後の就労における動向や福祉サービスの選択方法や活用、進路状況等について保護者や職員に周知する。	(2) 教育ビジョンの遂行	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に講師を招いて、障害福祉サービス事業所についての研修をする。 ・福祉サービス事業所の詳細な情報を掲載した「進路ガイド」の内容を有効活用できるよう改定し、最新の情報を提供するとともに、進路選択における情報を共有する。 ・総務部と連携し、保護者からの疑問点を基に「親の会研修会」や「進路だより」等で情報発信をする。 ・研究部と連携し、職員対象に企業就労、福祉サービスの現状と課題についての理解を図る。 	B	コロナ禍で実施ができていなかった夏季休業中の職員研修を事業所の方を講師として実施することができた。総務部と連携し、保護者へ進路に関する情報発信ができた。職員については、小・中学部については研究部と連携し、現職教育として進路に関する動向や卒業後の生活について周知することができた。高等部についても部会等で周知できた。
保健 ・ 美化 部	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、教職員の心身の健康を保持、増進するような情報を発信する。 ・給食を通して健全な食生活を身に付ける態度を養う。 	(1) 安全で安心な学校づくりの推進 (2) 教育ビジョンの遂行	<ul style="list-style-type: none"> ・「保健だより」で心身の健康を保つ方法や生活習慣に関する情報を掲載したり、検診後の事後措置を促したりして保健指導の充実を図る。 ・給食の配膳方法の確認したり、「給食だより」で献立や健全な食生活を見直すための情報を掲載する。 	A	熱中症や感染症対策を周知し対応の徹底に努めることができた。「保健だより」や「給食だより」では家庭でも実践できる心身の健康を保つ方法や、生活習慣に関する情報を提供し家庭との連携を図ることができた。また、日々の食育掲示板や給食一口メモで、その日の給食の食材の情報を提示し、児童生徒や教職員の食に対する関心を高め、食事の大切さを伝える支援につながった。

<p>相学 談び セと ン育 たち の</p>	<p>校内及び中讃地域の特別支援教育に携わる指導者の専門性を高め、幼児児童生徒への支援や指導を充実させることができるように相談支援や研修支援を実施する。</p>	<p>(3) 授業実践力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携訪問事例検討会、青の山プラクティス（校内学習会）を実施し、相談支援の実践力の向上や専門的知識の獲得を目指す。 ・サマーセミナーを開催し、校内外の指導者の専門性の向上を目指す。 ・宇多津町の指導者を対象に特別支援教育スキルアップセミナーを行い、専門性の向上を目指す。 ・個別の教育支援計画の説明会を実施し、方針や評価の記入についての個別対応を行う。 	<p>A</p>	<p>公開研修会や事例検討会、校内学習会を通して、発達障害当事者のこれまでの経験や思い、必要な支援を直接聴いたり、具体的な事例や実践に対する意見交換をしたりすることで、書籍では得られない気づきや学び、指導に関する新たな知識を得ることにつながることができた。中讃地域の教育関係者に対しては、サマーセミナーや宇多津町スキルアップセミナー、個別の教育相談等を通して、支援を必要とする児童生徒の理解を深めたり具体的な支援方法を知ったりすることで、指導の悩みの解決につなげることができた。</p>
---	--	---------------------	---	----------	---

学校評議員からの学校運営に関する提言

- ・（いじめ防止の取組で「分からない」のポイントが高いことに関して）
いじめに関して、先生は日々生徒に対応しているが、保護者はそれがあまり見えていない。保護者はそのことに不安を感じている。対応の仕方などを保護者に伝えていくことが大切。
- ・（特別支援学校での人権教育について）
人権教育は非常に難しいと感じる。自分自身を客観的に見るのは難しい。友達との関わりで学んでいくことも多い。
- ・（保護者との連携について）
特別支援学校の児童生徒数が増え、在籍する児童生徒の状況も変わってきている。保護者も含めて変わってきている。学校だけでは抱えることが難しいことがある。他の機関と連携し、情報交換をしていけたらよいのでは。連携の体制をとることで良くしていけるのでは。
- ・（保護者や教員同士の連携について）
保護者や生徒、職員間で認識のずれがあるのは当たり前。情報の受け取り方に相違がある。ずれていることが分かることをプラスに捉え、呼吸を合わせていけるようにする。
- ・（学習の評価について）
小学部の3観点の「主体的に取り組む態度」は難しい。研究を現職教育で行っていると思う。大変だと思うが、続けていってほしい。
- ・職員が多忙化している。先生方も健康に留意して、子どもたちに元気に向き合えるようにしてほしい。